

「生命のがん教育」を実施しました

(平成30年度3学期分)

平成30年度3学期は21校に出向き、「生命のがん教育」を実施しました。

◆授業形式

- (1) 医療従事者によるがんについての講義 (20分)
- (2) がん経験者のお話 (20分)

◆授業風景



(相楽東部広域連合立和束小学校)



(八幡市立男山第二中学校)



(京都市立伏見工業高等学校 (夜間定時制))

◎小学校 (10校)

実施日	実施校	学年	担当講師*
1月11日(金)	相楽東部広域連合立和束小学校	5年	京都山城総合医療センター がん診療部長兼化学療法部長 小池 浩志
2月5日(火)	綾部市立志賀小学校	6年	京都府健康福祉部健康対策課 医務主幹 瀬古 裕也
2月5日(火)	宇治田原町立田原小学校	6年	京都府山城北保健所 所長 大熊 誠太郎
2月12日(火)	舞鶴市立大浦小学校	6年	独立行政法人 国立病院機構 舞鶴医療センター 外科系診療部長 山下 哲郎
2月15日(金)	京田辺市立田辺小学校	6年	京都市立病院 総合外科 医長 久保田 恵子
2月22日(金)	木津川市立相楽台小学校	6年	京都府健康福祉部健康対策課 医務主幹 瀬古 裕也
3月5日(火)	八幡市立南山小学校	6年	医療法人徳洲会 宇治徳洲会病院 放射線治療科 部長 立入 誠司
3月5日(火)	宇治田原町立宇治田原小学校	6年	京都府健康福祉部健康対策課 医務主幹 瀬古 裕也
3月11日(月)	京田辺市立三山木小学校	6年	京都府健康福祉部健康対策課 技師 内野 有紀

3月14日(木)	向日市立第5向陽小学校	6年	社会福祉法人 恩賜財団 済生会京都府病院 副院長 堀 義幸
----------	-------------	----	----------------------------------

<児童の感想>

- ◇ 「がん」になっても、助かる確率があるし、周りにはきっと支えてくれる人がいると思うので、あきらめずに「大丈夫」と落ちつくのも大事だと思いました。
- ◇ 「がん」は、なる前に検診に行くことが大切なんてはじめて知りました。
- ◇ 健康な体でいることの大切さがよく分かりました。
- ◇ 私は「がん」になったらぜったい死亡すると思っていただけで今日の勉強ではやく「がん」が見つかって、もしかしたら治るかもしれないということがわかりました。「がん」のいろいろなことについて知りました。

◎中学校（9校）

実施日	実施校	学年	担当講師*
1月22日(火)	八幡市立男山東中学校	1年	京都府健康福祉部健康対策課 医務主幹 瀬古 裕也
2月8日(金)	京田辺市立田辺中学校	2年	独立行政法人 国立病院機構 京都医療センター がん診療部長兼がん患者・家族支援科 科長 山崎 誠二
2月21日(木)	宇治田原町立維孝館中学校	2年	医療法人 医仁会 武田総合病院 外科 顧問 加藤 仁司
3月4日(月)	洛南高等学校附属中学校	3年	社会福祉法人 京都社会事業財団 京都桂病院 副院長 国立 裕之
3月4日(月)	八幡市立男山第二中学校	1年	社会医療法人岡本病院(財団)京都岡本記念病院 消化器内科部長兼内視鏡センター長 河端 秀明
3月8日(金)	木津川市立山城中学校	3年	京都山城総合医療センター がん診療部長兼化学療法部長 小池 浩志
3月12日(火)	京都市立洛水中学校	3年	独立行政法人 地域医療機能推進機構 京都鞍馬口医療センター 副院長 柴 禄郎
3月15日(金)	八幡市立男山第三中学校	2年	京都府健康福祉部健康対策課 医務主幹 瀬古 裕也
3月18日(月)	井手町立泉ヶ丘中学校	1年	京都大学医学部附属病院 腫瘍内科 医師 片岡 滋貴

<生徒の感想>

- ◇ 日頃からの適度な運動や塩分をひかえめにすることが大切だとわかったので、家族のお手本になろうと思いました。また今日の授業を家族のみんなに伝えることが大事だということがわかりました。
- ◇ まず始めに「がん」は身近な病気であると思いました。毎回このような教育を受けて思うこともあるのですが、改めて考えさせてくれる機会となり、とても役立ったと思いました。
- ◇ 大切な人ががんになったとき、どういう行動を取ればなった人も喜ぶか分かった気がします。
- ◇ 自分の大切な家族や友達、身近にいる人ががんになったら、いつでも頼ってほしいと思いました。自分ががんになったとしても、身近な人に相談して、少しでも心が軽くなった方が良くないかと思います。
- ◇ 「がん」が、人の体を崩していくのと同時に、心を崩していくことがわかったので、心のケアをして、病を気から治せるほどにがんばっていきたい。
- ◇ もし自分が「がん」になってしまったとき、支えがあるととても強くなれることがわかったので、ふだんか

ら周りの人への感謝をわすれずに、思いやりをもって接していこうと思いました。また、身近な人が「がん」にかかってしまったときは、自分ができることを全力でして支えようと思います。

◎高等学校（2校）

実施日	実施校	学年	担当講師*
2月6日(水)	京都府立須知高等学校	3年	京都中部総合医療センター 副院長 山岡 延樹
2月8日(金)	京都市立伏見工業高等学校 (夜間定時制)	1年	日本赤十字社 京都第二赤十字病院 泌尿器科 医師

<生徒の感想>

- ◇ 家に帰れば、御飯ができておりお風呂が沸いている。洗濯物はいつの間にか洗って干してあるのが今は当たり前なので、この当たり前が当たり前じゃなくなると考えると、とても怖いと感じました。なので、当たり前ではなく、1日1日、一瞬一瞬を大切に過ごそうと思いました。また、もし「がん」になっても、人生を悲観せずにむしろ楽しむ気持ちで生きようと思いました。
- ◇ いつも夜遅くまで起きているから、夜しっかり寝ようと思いました。
- ◇ 「がん」の詳しいことを聞けたし、実際に「がん」を経験された方の話も聞けてとても良い経験になりました。「がん」は2人に1人がかかるという話を聞いて、とても怖いと思ったけれど、早期発見により治すことができるんだなあと思いました。大人になるにつれて、運動をする機会はなくなってくるけれど、自分で時間を見つけて、運動もしていきたいなあと思いました。食生活の方も気をつけていきたいなあと思いました。今日の講演を聞いて、人間ドック等も受けようと思いました。今日から少しずつ食生活を改善したり、睡眠時間も見直していきたいと思いました。
- ◇ 自分の祖母も乳がんにかかり髪の毛が抜けています。
先生方の話はとても心に響きました。
今回のこの機会を大事に心の中にしまって忘れません。
祖母にいままでの感謝を返していきたいと思います。

※担当講師の所属・役職は授業実施当時のものです。

「生命のがん教育」の実施を検討されている学校は健康対策課がん対策係までご連絡ください。

TEL：075-414-4766 電子メール：kentai@pref.kyoto.lg.jp